

研究テーマ	<p>[Ⅲ 造形感覚を発揮して、自分らしい表現を生み出すこと] 諸外国の美術作品を鑑賞し、よさや美しさ、表現の意図を感じ取り、自分の表現に生かしていく場の構成の工夫 一小学校6年「芸術家の心にふれて」の実践を通して一</p>
-------	--

鹿嶋市立鉢形小学校 教諭 藤岡 春雄

1 研究テーマについて

高学年になると、社会的な視野の広がりから、我が国及び諸外国の美術作品などに対しても親しみをもってとらえることができるようになる。形や色などから分析的に見たり、意図や気持ちなどを読み取ったりするなど、作品などを深くとらえることができるようになる。

そこで今回は、諸外国の美術作品を鑑賞し、感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどを通して、よさや美しさ、表現の意図を感じ取り、それをもとに自分の表現に生かしていくという場の構成を設定した。

諸外国の美術作品は、国や地域、文化、時代、風土、作者の個性などがかわって創造され、固有のよさや美しさを醸し出している。それらの背景に触れながら、鑑賞を進めていきたい。さらに、話す、聞く、話し合うなど、言語活動の充実した学習活動を取り入れ、表し方の特徴をとらえ、自分の表現に生かせるようにしていきたい。

児童の造形感覚を十分に発揮させるために、本物の美術作品を実際に鑑賞させ、そこから湧き上がってくる感動をもとに、自分らしい表現方法を見つけさせていきたい。

2 実践例

(1) 題材名 芸術家の心にふれて

(2) 目標

- ・ 諸外国の美術作品に興味をもち、そのよさをもとに、自分らしい表現で意欲的に制作に取り組もうとする。 (関心・意欲・態度)
- ・ よさや美しさ、表現の意図を感じ取り、自分の表したいものを思いつづことができる。 (発想・構想の能力)
- ・ テーマの作り方、表現方法、描画材の扱いなど、表し方を工夫して表すことができる。 (創造的な技能)
- ・ 諸外国の美術作品やと友達の作品を鑑賞し、テーマや表現の工夫を感じ取ることができる。 (鑑賞の能力)

(3) 題材について

諸外国の美術作品を取り上げるにあたって、諸外国の文化や風土、作者の個性などを調べ作品の背景をとらえさせたい。また、言語活動の充実した学習活動を取り入れ、自分が表現していく上で、そのもととなる観点をとらえさせていきたい。作品制作においては、画用紙、絵の具、筆など描画材を豊富にそろえて、自由に表現させていきたい。

本題材では、諸外国の美術作品としてアボリジニアートを取り上げて指導していく。アボリジニアートとはオーストラリアの先住民「アボリジニ」の人々によって描かれる絵画のことである。文字を持たなかったアボリジニの社会では絵を描くことが重要なコミュニケーションであった。作品のテーマや表現方法などを十分に感じ取ることができるよう、アボリジニの風土や文化をゲストティチャーの講話からとらえさせていきたい。そして、作品の鑑賞から感じたものを自分の表現に生かせるようにしていきたい。

(4) 指導計画（6時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点			
		関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
2	アボリジニアートについての話を聞いたり、アボリジニアートを鑑賞したりして、よさや美しさを感じ取ることができる。	アボリジニアートに興味をもつことができる。			アボリジニアートのよさや美しさを感じ取り、友人と話し合うことができる。
2	感じ取ったよさをもとに、表したいものを思いつづることができる。	感じ取ったよさをもとに下絵を描こうとすることができる。	テーマや題材を考えながら下絵を描くことができる。	用具や絵の具を使って、試し書きをすることができる。	
2 (本時)	アボリジニの姿やアートとふれあい、表したいものを工夫して表すことができる。	思いついた表したいものを工夫して楽しく表すことができる。	考えたテーマや題材をもとに表したい物を描くことができる。	用具を選んだり、表現方法を工夫したりして表すことができる。	自分たちが表した作品のよいところについて友人と話し合うことができる。

(5) 本時の指導 (2時間扱い 90分)

◇ 目標

- アボリジニアートに興味をもち、そのよさをもとに自分らしい表現で思いついたものを描くことができる。

◇ 準備・資料

アボリジニアート・学習カード・画材・塗料・レジャーシート

◇ 展開

活動・内容	活動の支援 (評: は評価)
<p>1 本時の学習について知る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">アボリジニの姿やアートとふれあい、世界に一つのアートを描こう —「自分らしい表現で」—</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の流れをカードで確認する。(自己評価を入れたもの)
<p>2 作品を見て気づいたことをワークシートに記入したり、発表したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気がついたことを発表し、板書しておき、制作のときのヒントとなるようにする。 ・ 心に思い浮かべたイメージを書くことにより具体化する。
<p>3 ゲストティチャーから作品の紹介を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アボリジニの風土・文化・歴史・アート ○ 作品制作の様子 ○ 画材の紹介 (絵の具, 筆, キャンバス) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「総合的な学習の時間」「社会」「人権教育」と関連させ発展的に学習できるように事前に予備学習をする。
<p>4 アボリジニアートから感じ取ったよさをもとに、テーマの作り方、表現方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① テーマ, ストーリーを考える。 ② 画材の道具を選ぶ。(絵の具用筆, わりばしペン, 綿棒, つまようじ, スポンジ) ③ キャンバスの下地の色を考えて彩色を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導を行い、感じ取ったよさをもとに支援・助言する。 ・ 様々な用具を用意する。
<p>5 構想をもとに、テーマや表現方法を工夫して描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 順番を考えて描く。 ② 複数の作品を描きたい児童には続けて構想して描くように伝える。 ③ 後片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 十分な活動ができるようにスペースを確保する。 ・ 制作中の様子を写真やビデオなどの映像で記録し、自己評価に役立てるようにする。 ・ 造形感覚を発揮して、自分らしい表現が生み出せるよう支援する。
<p>6 自分の作品を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ポスター発表, パビリオン形式で行う。(5分) <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ, ストーリーの発表 ・ 工夫したところ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間を決めて、スムーズに流れるよう音楽やチャイムで合図する。
<p>7 鑑賞カードに記入し、友人と話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 能動的な気持ちで鑑賞できるように配慮する。
<p>8 自己評価をして学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ つくり始めから終わりまで幅広く振り返られるようにする。
	<p>評: アボリジニアートに興味をもち、そのよさをもとに自分らしい表現で思いついたものを描くことができたか。</p> <p style="text-align: right;">(観察・作品)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品を校内ミニ美術館や勤労文化会館に展示するなど次の単元にもつながる余韻を残す支援をする。

(6) 学習の実際



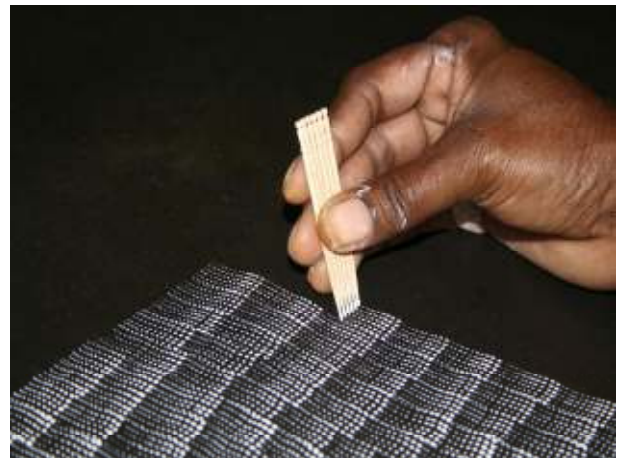
ゲストティチャーによるアボリジニアートの紹介



アボリジニアート



アボリジニアートの技法



図画工作学習プリント
「芸術家の心にふれて」4月15日(土)

名前 _____



1 作品や制作の様子などのお話を聞いて感じたことや思ったことを書きましょう。

2 作品のよさや美しさなどについて感じたことを書きましょう。

鑑賞カード

児童の感想

もようは、その場所の目じるしだと聞いてすごいと思いました。こまかいところもぬってすごいと思いました。

作品を作る時、色をぬる道具でつまようじや綿棒を使っていてびっくりしました。文字ではなく絵で表すことはすごいと思いました。

ピンク色の作品は桜が満開に咲いていたかのように見えました。ぐるぐるの模様は色々な色を使っていて、色々なことを意味していることが分かりました。



スカイプを活用し、メルボルンのアボリジニアアーティストとの交流



校舎中庭での制作の様子



綿棒を活用して制作



つまようじを活用しての制作



わりばしペンの活用



児童作品「花のある場所」



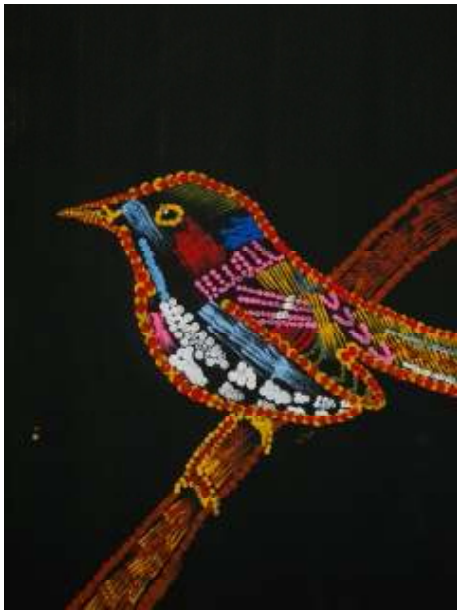
児童作品「水が流れている場所」



児童作品「宇宙の星」



児童作品「水」



児童作品「ゴットバード」



児童作品「シマフクロウ」



鹿嶋市勤労文化会館での作品展示

3 成果と課題

- ゲストティチャーの協力により、本物の美術作品を鑑賞することができ、その感動をもとに、児童の造形感覚を発揮させることができた。
- アボリジニの文化や風土を知ること、アートに込められたテーマを知ることができ、自分の作品制作においてもテーマを考えて、表現しようとする姿が見られた。
- 外国の美術作品を鑑賞し、制作することにより、児童にとって、美術作品は身近なものとなった。美術作品に対する興味関心を高めることができた。
- オーストラリアの風土、先住民族のアボリジニの歴史・文化を知ることができた。図工だけではなく、社会科や総合的な学習の時間、道徳、人権教育との関連性を図ることで発展的に学習することができた。
- 教室にアボリジニアートコーナーを設けて、アボリジニアートの写真や、アボリジニの言語を掲示することで作品制作への意欲を高めることができた。
 - ・ 抽象的な作品を描くか、具体的な作品を描くか躊躇する児童が見られた。テーマなどを一緒に考えながら支援した。
 - ・ アクリル絵の具やキャンバスボードの扱い方の指導が十分にできなかった。特にアクリル絵の具は使用後のパレットの後始末が十分にできなかった。
 - ・ 学年当初から継続して学習してきた。学習の全体的な計画を児童に提示することができなかった。全体計画を提示することで、児童の主体性や自主的な活動が促すことができたと思われる。
- ※ 4月・・・アボリジニの風土・文化・歴史・アート（総合的な学習の時間、社会、道徳）
 - 5月・・・スカイプでの交流（総合的な学習の時間）
 - 7月・・・作品制作と展示
 - 10月・・・鉢形祭、市展、県展作品制作
 - 1月・・・1年間のまとめ